NEWS RELEASE

2025 年 5 月 14 日
総合メディカルグループ株式会社

カケハシとの調査で薬剤師による介入（QI スコア）とがん患者アウトカムの相関性が明らかに

薬局における対人業務の質の可視化について日本薬学会で発表

当社グループの総合メディカル株式会社（本社：東京都千代田区／福岡県福岡市、代表取締役社長 多田 荘一郎、以下、総合メディカル）と株式会社カケハシ（本社：東京都港区、代表取締役社長 中尾 豊、代表取締役 CEO 中川 貴史、以下、カケハシ）は、医療の品質を客観的に評価する定量的指標である「クオリティ・インディケーター」（以下、QI）を活用し、抗がん薬の副作用に対する薬局薬剤師の介入の実態調査を実施しました。薬剤師の介入を示した QI スコアが向上すれば、患者さんの副作用の悪化防止・改善につながった割合は上がるという相関性が見られました。また、本調査について、総合メディカルの本田 雅志が日本薬学会第 145 年会で発表をしました。

総合メディカルでは、これまで保険薬局におけるがん患者に対する対人業務の質向上を目的として「外来がん治療の専門薬剤師による疾患別薬剤師担当制の構築」や「保険薬局版がん患者標準応対手順の開発」、「がん対話カフェの開催」などの先駆的な施策に取り組んでいます。今回、カケハシが開発した QI 算出プロセスを薬局現場へ導入し、各施策の客観的評価と、薬剤師一人ひとりの対人業務における品質の可視化を実施しました。

【調査概要】

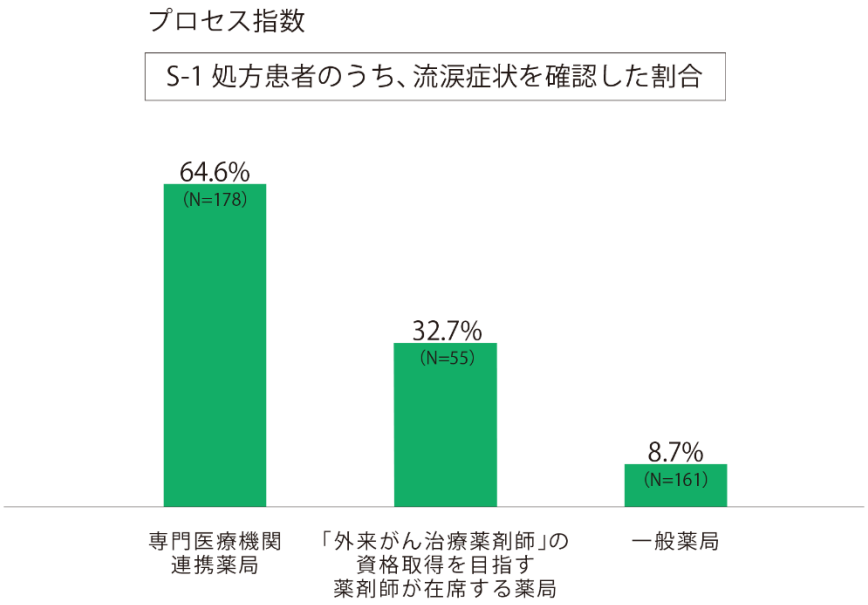
総合メディカルは、カケハシが提供する薬局業務支援サービス「Musubi」の服薬指導支援機能の記録解析によって QI を算出しながら、薬剤師が患者さんそれぞれに必要なケアを実施したか、プロセスの評価を試みました。

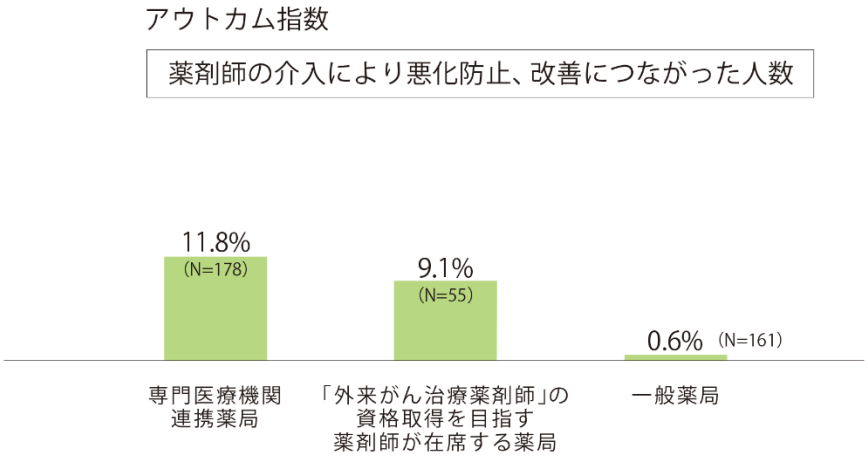
その中でも、抗がん薬 S-1（以下、S-1）の副作用である「流涙（りゅうるい）（涙があふれて、視界がかすむこと）」のケアに着目しました。薬局では副作用の発現をモニタリングしつつ、患者さんへ副作用の対処法を伝えたり、必要に応じて受診勧奨を行ったりするほか、主治医へ休薬提案するなどさまざまな工夫をしています。しかし、専門薬剤師と非専門薬剤師の介入の質の差はエビデンスとして創出されていませんでした。

そこで、我々は流涙の確認頻度に関する QI を設定しました。2024 年 4 月から 9 月の間に S-1 の調剤実績があることに加え薬歴調査に同意を得られた総合メディカルが運営する薬局計 49 店舗（専門医療機関連携薬局 8 店舗、「外来がん治療専門薬剤師」の資格取得を目指す薬剤師が在籍する薬局 6 店舗、一般薬局 35 店舗）で薬剤師の介入の実態調査を行いました。

具体的には、プロセス指標（QI）となる「流涙の確認頻度」と、アウトカム指標となる「薬剤師の介入により症状の悪化防止・改善につながった割合」に相関性があるのか検討をしました。

【結果】





プロセス指標（QI）の「流涙の確認頻度」は、専門医療機関連携薬局で 64.6%だったものの、一般薬局は 8.7%に留まりました。また、アウトカム指標の「薬剤師の介入により症状の悪化防止・改善につながった患者割合」は、専門医療機関連携薬局で 11.8%となり、一般薬局（0.6%）の約 20 倍となる結果でした。

この結果から、抗がん薬の副作用の発現をこまめに確認し、服薬期間中にフォローアップを行うことで、患者さんの流涙症状の把握や介入による改善に努める、専門医療機関連携薬局の対人業務の質の高さが評価できました。加えて、プロセス指標とアウトカム指標に相関性が見られたことから、QI スコアを向上させる医療的意義が示されました。

今後、総合メディカルは、専門医療機関連携薬局の薬剤師が、一般薬局に対して情報提供や注意喚起を行うことで、関連指標が改善するかを検証したいと考えています。

日本薬学会第 145 年会での発表で、総合メディカルの本田 雅志（ヘルスケア事業部門 学術情報部）は、「Musubi を活用することで、がん分野における薬局の質評価が QI で可能になった。当社グループではがん分野に留まらず、さまざまな分野においても薬局の質を高めるための取り組みを全社的に進めている。今後、技術的進歩により、QI の算出がより無理なく継続的に行えることで、薬局の質の面で評価されることを期待したい」とし、カケハシで QI 研究事業を担当する工藤 知也氏は「QI とアウトカムの相関を見出せたことで、QI の社会実装の重要性を示す研究成果になった」と強調しました。

QI は、薬局薬剤師による介入価値の可視化に繋がることが本調査によって明らかになり、その他の疾患や副作用においても評価指標を設定する重要性が示されました。今後、QI を開示する動きが高まれば、将来的に患者さんは自身の疾患に対して最適な薬物治療を受けられる薬局を選びやすくなる可能性があります。

当社グループは、今後も “みんなの健康ステーション”として、健康を願うすべての人びとをサポートし、「よい医療を支え、よりよい社会づくり」に貢献してまいります。

■日本薬学会第 145 年会
がん分野において、薬局のクオリティ・インディケーター評価は行えるのか？
https://pub.confit.atlas.jp/ja/event/pharm145/presentation/SS13-03

■カケハシ プレスリリース
カケハシ、総合メディカルとの調査で薬剤師による介入（QI スコア）とがん患者アウトカムの相関性が明らかに
https://www.kakehashi.life/news-post/20250430

■カケハシ イベントレポート
日本薬学会第 145 年会 データサイエンスから薬剤師の未来を考える―産学官の立場から―
薬歴データを用いて薬局の対人業務を評価
https://musubi.kakehashi.life/blog/20250329_pharm145_report#67f72e60415f381c65f3939d-1744256082689

■Musubi
https://musubi.kakehashi.life/

以上

【本件に関するお問い合わせ先】
総合メディカル株式会社 総務部 広報グループ
福岡市中央区大名二丁目９番 23 号
TEL：092-713-9181 FAX：092-713-0185 E-mail: koho-ir@sogo-medical.co.jp